

第3学年 国語科学習指導案

1 教材名 「四 状況に生きる」『二つの悲しみ』

2 教材設定の理由

(1) 生徒観

総じて明朗で、自分の意見を臆せずに表示できる生徒が多い。また、国語の学習に対する関心・意欲は高く、アンケートでも七割近くの生徒が「国語の学習が好きである」と回答している。反面、落ち着いてじっくりと学習に取り組むことは苦手であり、授業での理解が確かな定着につなげていない生徒も多くみられる。また、個人差が大きく、積極的な生徒の発言にまかせっきりになってしまう生徒も少なからずいるのが現状である。

読書を始め、物語文への関心は比較的高い。しかし、その理解は浅い段階にとどまり、そこから心情や情景を詠み味わったり、じっくりと主題に迫ったりすることは得意ではない。

そこで、「読むこと」の学習においては、描写を的確にとらえ、表面的な理解にとどまらず、その根底にある作者（筆者）の思いを汲み取ろうとする姿勢を育てていくことが必要である。また、意見交換を活発にし、消極的な生徒の授業への前向きな参加をうながすために、少人数グループでの話し合い活動を多く設定していきたい。

(2) 教材観

本単元は、小説「故郷」、随筆「二つの悲しみ」、詩「お辞儀するひと」の三作品で構成されている。それぞれ表現形式も時代背景も異なるが、そこには状況と真摯に向かい合う人間の姿が共通して描かれている。また、三年間の中で本格的に「読むこと」の学習に取り組む最後の単元となる。一年生の「作品のおもしろさ、作者の思いをとらえる」、二年生の「表現の特徴に注意して感想を深める」ことの上に立ち、「文章と状況のかかわりを理解する」「表現を味わい、主題や筆者の思いに迫る」ことで、作品を読み深める学習に取り組んでいく。

本教材は、第二次世界大戦では戦地で負傷し、戦後派引揚救護局で多くの人々に肉親の死を告げるという仕事に携わった作者の体験をもとに書かれている。大戦二十年后に勃発したベトナム戦争は、このような過酷な経験を持つ作者にとって他人事ではない。繰り返される戦争に一石を投じるべく、当時のつらい記憶が再現され、読者に問題提起をしている。

息子を亡くした紳士と、父親を亡くした少女の描写から、その心の動きがよく見える。そういった表現や筆者が投げかけた言葉に注目し、この文章で伝えようとしたことは何であるのかという主題に迫りたい。

(3) 指導観

本教材は戦争を題材としているため、えてして生徒は反戦への思いをつづることに終始しがちである。しかし、文末の「この悲しみから何を考えるべきであろうか」「わたしたちは何をすべきであろうか」という問いかけに対して、「戦争はいけない」「平和を大切にする」といった表面的な理解で終わったのでは、筆者の本当の意図は見えてこない。

そこに込められたたとえようもない憤りをとらえるために、登場する二人の「悲しみ」についてじっくりと考えさせたい。「紳士」と「少女」の二人は、悲しみを直接言葉で表現してはいない。しかし、表情や動作の描写に表れた抑えようのない悲しみをとらえることで、「気づき」「読み取り」「考える」という姿勢を育てていきたいと考える。

また、「二つ」と表現される悲しみは、決して二人だけのものではなく、「わたし」をはじめとするさまざまな人たちの、さまざまな形での「悲しみ」を含んでいることに気づかせることにより、さらに深い理

解を目指したい。そして、「悲しみ以上の何か」「声なき声」に注目させ、戦争が奪ったものは命だけではないことなどから、主題や筆者の思いに迫っていきたいと考える。

3 教材目標

- (1) 文章や作品を読んで、自分のものの見方や考え方を深めようとする。【関心・意欲・態度】
- (2) 表現の仕方や文章の特徴に注意して読み、筆者の表現意図を捉えることができる。【読むこと】
- (3) 文章を読んで、人間・社会などについて考え、そこから自分の意見をもつことができる。
【読むこと】

4 指導計画

- 全文を読み、内容のあらましをとらえる・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
- 二人の人物の描写をとらえ、「二人の悲しみ」「二つの悲しみ」について考える・・ 1時間
- 筆者がこの文章で伝えたかったことについて考える・・・・・・・・・・ 1時間（本時）

5 評価規準

学習内容	評価の規準		
	関心意欲・態度	中心となる領域	言語の知識・理解・技能
1 困難な状況に生きる人々を描いた作品を読み、思考力や想像力を養いながら、人間や社会などについて考え、自分の意見を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ・文章や作品を読んで、自分のものの見方や考え方を深めようとする。 ・時代の状況や歴史に関心を持ちその文章や作品が生まれた背景を考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 【読むこと】 ・文章や作品の背景にある時代の状況を捉えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・抽象的概念を表す語句について理解している。
2 文脈の中における効果的な表現や文章の特徴から書き手の表現意図を理解し、主題に迫る。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの意見を持ち、積極的に話し合いに参加しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 【読むこと】 ・表現の仕方や文章の特徴に注意して読み、筆者の表現意図を捉えることができる。 	

6 本時について

- (1) 主 題 「この文章を通して筆者が伝えたかったことは何か」
- (2) 目 標
 - ・「二十年たった今」になって、この文章を書いた筆者の意図をとらえることができる。
 - ・自分の意見を持って積極的に話し合いに参加することができる。
 - ・筆者の問いかけに対して、自分なりの答えをまとめることができる。

(3) 指導の構想

本時は本教材のまとめの時間となる。前時の「人々の悲しみ」についての学習をふまえ、筆者がこの文章を書いた意図について考える。なぜ「二十年たった今」、筆者が改めて筆を執りこの文章を書いたのか。直接日本への被害のないベトナム戦争を見て、第二次世界大戦に思いを馳せ、戦争の悲しみや苦しみを忘れつつある日本人への警鐘を鳴らす作者の姿をとらえさせたい。

筆者の意図というと、反戦や平和への希求という抽象的な意見を、安易にまとめる生徒が多くなると推測される。そこで、少人数グループでの話し合いを活用し、多様な意見を聞くことでお互いの意見を見直し、理解を深める一助としたい。また、その際、「悲しみ以上の何か」「声なき声」に注目させ、できるだけ具体的に筆者の思いをとらえようとする姿勢を育てたい。

(4) 具体の評価規準

	A 十分満足	B 概ね満足	C 努力を要する生徒への手立て
関心・意欲・態度	・自分なりの意見を持ち、グループの中心となって話し合いに参加している。	・自分なりの意見を持ち、積極的に話し合いに参加しようとしている。	・断片的でも構わないので、学習シートに記入したことや考えたことについて、発言してみるように助言する。
読むこと	・筆者がこの文章で伝えたかったことを、深く考え、的確にまとめることができる。 ・筆者の問いかけに対して、深く考え、的確にまとめることができる。	・筆者がこの文章で伝えたかったことを、自分なりに考えてまとめることができる。 ・筆者の問いかけに対して、自分なりに考えてまとめることができる。	・なぜ「二十年たった今」なのか、ベトナム戦争との関連からも考えてみることや、グループの他のメンバーの意見を聞き自分はどう思うかを考えてみることを助言する。 ・単純に「戦争反対」だけではなく、そこに込められた筆者の思いについて考えてみるように助言する。

(3) 本時の展開

段階	学習過程	生徒の活動	教師の指導・支援	評価・備考 =評価
導入 5分	1 準備	1 言葉のエクササイズを行う。	・テンポ良く発声できるように指示をする。	学習シート
	2 前時の想起	2 前時の学習内容の想起。	・「二つの悲しみ」の内容について想起させる。	
	3 課題の設定	3 学習課題を設定する。	・筆者がこの文章を書いたのが「第二次大戦から二十年たった今」であることに注目させる。	
		この文章を通して筆者が伝えたかったことは何だろう。		
展開 35分	4 課題の追究	4 キーワードをたよりに筆者の思いを探る。 ・個人で取り組む。 ・少人数グループで話し合う。	・「悲しみ以上の何か」「声なき声」に注目させる。 ・このあとのグループの話し合いで発言できるように、意見を持つことを確認する。 ・4人グループで話し合わせる。 ・無理に一つにまとめる必要はないことを確認させる。	学習シート ・安易に「反戦」というまとめにならないように留意させる。 学習シート 筆者の思いについて自分なりの考えを持つことができたか ・役割分担を確認させる。 自分の意見を持って積極的に話し合いに参加しているか
	5 課題の解決	5 話し合った内容を発表する。	・グループ毎に発表させる。	・できるだけ全部の班に発表させる。
	6 まとめ	6 筆者の問いかけの答えを考える。 ・自己評価をする	・「そこ」から『何を考えるべきか』『何をすべきか』という筆者の問いかけの答えを自分なりにまとめさせる。 ・学習シートに記入させる。	学習シート 筆者の問いかけに対して、自分なりの答えをまとめることができたか 学習シート
終結 10分	7 次時の予告	7 次時の学習内容を確認する。	・次時の学習内容を伝える。	